



様式第4号 (第7条関係)

令和5年10月31日

東かがわ市議会議長  
渡邊 堅次様

東かがわ市議会議員  
(会派・個人・その他)  
氏名 渡邊 堅次

行政視察等報告書

1	日 時	令和5年10月13日(金)～令和5年10月15日	
2	参加者	渡邊 堅次	
3	研修目的等	内容	研修場所
		第46回全国町並みゼミ小樽大会 歴史 に学びこれからの小樽のまちづくりを 考える	北海道小樽市 小樽市民センター
		第46回全国町並みゼミ小樽大会 歴史 文化まち歩き	北海道小樽市 小樽市観光物産プラザ
		第46回全国町並みゼミ小樽大会 地域 固有の町並みを活かしたまちづくりと 法制度	北海道小樽市 小樽芸術村
第46回全国町並みゼミ小樽大会 記念 シンポジウム「市長サミット町並み保 存とまちづくり」	北海道小樽市 小樽市議事堂		
4	研修・調査内容	別紙のとおり	
5	研修成果	別紙のとおり (感想・今後の取り組み等)	
6	費用	112,120 円	

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

# 行政視察報告書

## 4 研修・調査内容

### 第46回全国町並みゼミ小樽大会

#### ①「歴史に学びこれからの小樽のまちづくりを考える」

パネルディスカッション前に、まず台湾歴史資源経理学会秘書長・丘如華氏（チュー・ルーファー）の記念講演、「台湾の町並み保存とまちづくり・全国町並みゼミと峯山富美」が行われた。丘秘書長は、台北の（ダーダオチェン）の町並み整備を始め、日本との交流で果たして来た成果を振り返り、今後他の国の支援と一緒に取り組もうと呼びかけた。

続いて、40年以上にわたり運河問題を綿密に調査し、『町並み保存運動の論理と帰結：小樽運河問題の社会学的分析』の著者である堀川三郎法政大学社会学部教授が講演「小樽運河論争の対立構造－その遺産と新たな動き」を行った。堀川教授は、現在の小樽は、かつての保存の論理に変わる理念を見つけることができず「終わりの始まり」にあるのではないかと喝破し、運動の再構築の必要性を、わかりやすい語り口で訴えた。

これらの講演の後に行われたパネルディスカッションでは、先の堀川教授が近年の快挙とする北海道製罐第三倉庫の保存を担ってきた若い活動家たちが登壇することで、今回のゼミのもう一つのテーマが世代交代であることを印象付けつつ、各地から町並み保存活動の報告が行われた。

#### ②「歴史文化まち歩き」

早朝の運河清掃を体験の後、日本の近代化を牽引した小樽のまち並みを市内小学生・高校生を含むボランティアガイドの方の説明を受けながら運河中央、運河散策路を通過して、国指定重要文化財「旧日本郵船(株)小樽支店」や北海道鉄道発祥の旧手宮線を廻った。

### ③「地域固有の町並みを活かしたまちづくりと法制度」

午後からは各分科会に分かれており、私は本ゼミの基本テーマとなる標題を扱う第一分科会を選択した。

第一分科会では、函館、神戸の事例を参考に、小樽の歴史的建造物をこれからも確実に保存していくためには、歴史まちづくり法の適用や重要伝統的建造物群保存地区の指定を視野に入れること、制度側の再構築も視野に入れるべきことが話し合われた。

### ④記念シンポジウム「市長サミット町並み保存とまちづくり」

重要伝統的建造物群保存地区をかかえ、歴史まちづくりを主要な政策の一つとして取り組む、函館市の大泉潤市長、内子町の小野植正久町長を迎え、迫俊哉小樽市長とともに、町並み保存とまちづくりをテーマとした標題の記念シンポジウムを行った。本ゼミでの成果を踏まえ、制度の活用と町並み保存、まちづくりはどうあるべきかについて語り合い、歴史まちづくりには、首長のリーダーシップのもと、継続的な取組が欠かせないことを確認した。

## 5 研修成果

今回の視察は優秀なガイドに導かれ、小樽の木骨石造の倉庫、鉄筋コンクリートの工場や銀行建築から町家や住宅まで、明治から戦後に及ぶ、実に多彩な近代建築遺産が広範囲にわたって重層的に遺され、しかもその多くが活用されていることを確認でき、改めて目を見開かされた。また、町並みゼミの運営はもちろん、清掃活動、町並みガイドを始め、様々なまちづくり活動が、子どもから大人まで、たくさんの市民の献身的なボランティアで支えられていることに深い感銘を覚えた。この小樽大会での体験を胸に、「町並み保存にも賞味期限がある」ことから引田の古い町並みも新たな気持ちで保存していかなければならないと強く思った。